

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度(令和2年度)	科目名	情報系資格対策講座8
科目基礎情報				
開設学科	ITスペシャリスト科	コース名	ネットワーク専攻	開設期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数
単位数	6単位	開講時間	水曜 1時限目~	授業形態
教科書/教材	毎回資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。			
担当教員情報				
担当教員	黛宏明	実務経験の有無・職種	有・システムエンジニア	
学習目的				
基本情報技術者試験はIPAが主催する国家資格の一つであり、高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付けたことを証明する資格である。本資格はIT業界で開発者として働いていくために最低限必要とされている資格であり、遅くとも入社後3年目までには取得を推奨していることが多い。本講座では基本情報技術者試験の午前試験(150分)と午後試験(150分)が合格できるように対策を行っていく。				
到達目標				
基本情報技術者試験のテクノロジ分野(基礎理論、アルゴリズムとプログラミング、コンピュータ構成要素、システム構成要素、ソフトウェア、ハードウェア、ヒューマンインターフェース、マルチメディア、データベース、ネットワーク、セキュリティ、システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術)、マネジメント分野(プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査)、ストラテジ分野(システム戦略、システム企画、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ、企業活動、法務)のうち過去に出題された問題を重点的に理解する。				
教育方法等				
授業概要	基本情報技術者試験の必要性、午前試験免除制度を利用した場合としていない場合の合格率にあきらかに開きがあることを理解させる。各授業の前半では基本情報技術者試験の過去問を解き、自身の解答を学生が見直す。その後に不正解が多かった問題について重点的に解説を行い、学生の理解を高める。その後に、午後試験についても同様に過去問を解き、見直しを行った上で解説を行っていく。			
注意点	過去問に対して学生が適当に解答をしてしまうと誤答者の多い問題が適切に選び出せず、解説の効果が薄い事態に陥ってしまうため、学生が一生懸命に過去問に取り組むことを最重要視している。また、社会への移行を前提とした受講マナーで参加し、講義中の私語や受講態度などには厳しく対応する。(詳しくは初回の講義で説明する。)理由のない遅刻や欠席は認めない。コンピュータテクノロジーで利用した教科書を忘れずに持参すること。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受講することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験	0%		
	課題	50%	過去問の点数の増減を基に評価する	
	レポート	0%		
	成果発表 (口頭・実技)	0%		
	平常点	50%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画(1回～15回) 1回(4)時間 ※45分を1時間とする				
回	授業内容		各回の到達目標	
1回	ガイダンス		基本情報技術者試験の午前免除資格の必要性、今後の進め方を理解する	
2回	過去問演習と演習の解説(1)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	
3回	過去問演習と演習の解説(2)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	
4回	過去問演習と演習の解説(3)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	
5回	過去問演習と演習の解説(4)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	
6回	過去問演習と演習の解説(5)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	
7回	過去問演習と演習の解説(6)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	
8回	過去問演習と演習の解説(7)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	
9回	過去問演習と演習の解説(8)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	
10回	過去問演習と演習の解説(9)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	
11回	過去問演習と演習の解説(10)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	
12回	過去問演習と演習の解説(11)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	
13回	過去問演習と演習の解説(12)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	
14回	過去問演習と演習の解説(13)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	
15回	過去問演習と演習の解説(14)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる	